

国会図書館による科学技術情報の提供

■ 文献提供サービス

1 「雑誌記事索引」の遡及事業

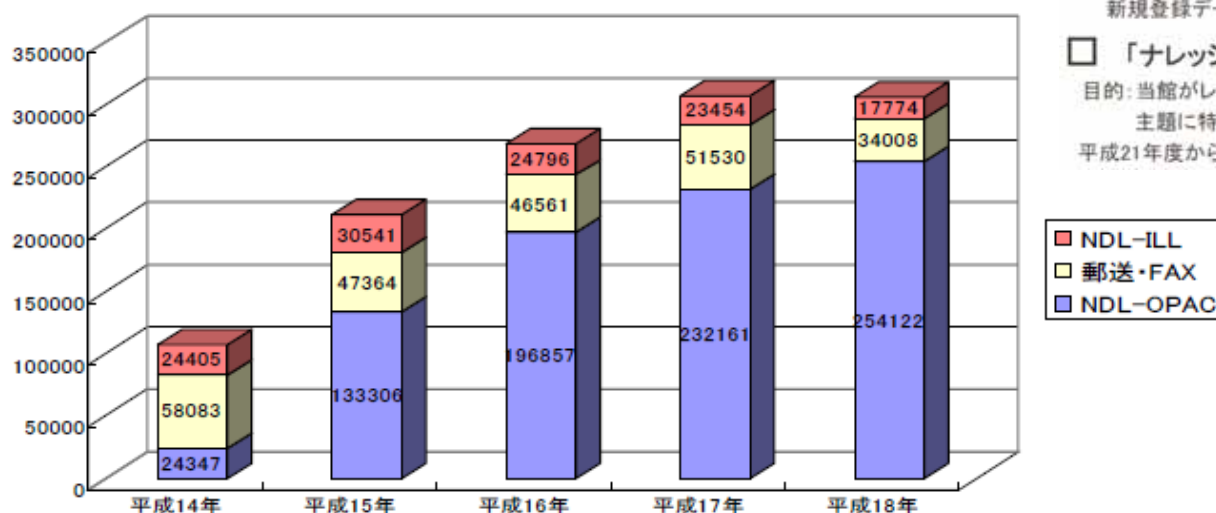
「雑誌記事索引 科学技術編」遡及入力・NDL-OPAC搭載の実施(平成16年度から実施)

1959年～1974年まで終了、1950年～1958年分(42万件)は、平成20年度搭載を目指す。

平成18年度までに遡及入力・搭載した件数	約60万件
平成19年度に搭載した件数	約26万件

2 インターネット経由による資料複写申込サービス

H18年度遠隔複写件数約30万件(H14年度,約 10万件に対する3倍以上の伸び)



■ 「調査の窓」 科学技術分野コンテンツ

平成19年12月末現在 453コンテンツ (約3,000コンテンツ中)

うちHP公開済みコンテンツ 約200コンテンツ

■ 科学技術情報コンテンツの作成・発信

当館HPの「テーマ別調べ案内」 (平成19年12月末現在)

1 平成19年度の新規テーマ作成 258テーマを作成 現在合計631テーマ

2 アクセス数の増加 約11万件/月(平成18年度:約5万6千件/月)

■ 「レファレンス協同データベース」へのデータ公開 H17.12公開

累積データ数 約2万8千件 うち 科学技術分野 約3千件(平成19年12月末現在)

新規登録データ数(H19.4~12) 約2千500件 うち 科学技術分野 約600件

□ 「ナレッジ提供サービス構築計画」策定 (平成19年5月)

目的: 当館がレファレンス業務を通じて蓄積した知識情報の効果的な提供

主題に特化した各種情報資源への効果的なナビゲーション提供

平成21年度から運用開始予定

国会図書館の主な科学技術関係電子情報

電子ジャーナル	約33,300種	主要抄録索引 DB	内容
うち科学技術関係	約14,800種	Web of Science	論文の書誌情報、引用文献情報 約8,800種
主要全文電子情報	内容	Journal Citation Reports	科学技術系学術雑誌の評価情報 約7,500種
Science Direct	主に科学技術関係 約1,770種	Inside Web	学術雑誌論文・会議録の書誌情報 約20,000種(学術雑誌) 約100,000点(会議録)
OCLC ECO	主に科学技術関係 約850種	JDream II	科学技術、医学分野の文献情報 約21,000種(学術雑誌)
Bio One	生物科学 87種	医中誌Web	国内の医学・歯学・薬学分野 約2,400種
IoP	英国物理学会Journal 約60種		
ProQuest 5000 international	全分野 約5,800種		
中国学術雑誌全 文データベース	全分野1994年分～ 約7,600種		
J-STAGE	主に科学技術関係 約680種		

注：JSTのJDream の利用は13:00-16:30（1人30分間）に制限されている。神奈川県立川崎図書館、品川区立大崎図書館、大阪府立中央図書館、大阪市立図書館で導入済。鳥取県立図書館は来年度から。

国会図書館 雑誌記事検索・郵送複写サービス

http://www.ndl.go.jp/jp/data/sakuin/sakuin_select.html

1 『雑誌記事索引』とは

国内刊行和文雑誌(外国刊行和文雑誌・国内刊行欧文雑誌を含む。)から、固有の論題をもつ記事をデータベース化し、雑誌文献検索の便宜を図るもの。雑誌記事の論題名、論題中の単語、著者を検索語として、文献の掲載誌・掲載箇所を特定できる。

2 採録誌選定範囲の拡大

『雑誌記事索引』は、おもに**学術雑誌**から採録誌を選定していた。1996年に約5,500誌へ拡大。企業・団体の研究報告、調査・研究に有用な雑誌、大学院・大学・短期大学・高等専門学校と関連研究機関発行の紀要類(**高等教育研究機関の全紀要と学科・専攻・研究所の紀要**)を加え、2007年9月10日現在 採録誌総数：17,346誌(内、現在採録中9,991誌、廃刊・採録中止7,355誌)

和洋刊行物の申し込みランキングトップ5 (2007年5～10月)

1位	電子情報学会技術研究報告	1位	Applied Physics Letters
2位	心理臨床学研究	2位	Physical Review. A, Atomic, molecular, and optical physics
3位	心理学研究	3位	Journal of Chromatography. A
4位	日本建築学会計画系論文集	4位	Journal of applied physics
5位	日本公衆衛生雑誌	5位	Journal of Crystal Growth
5位	臨床心理学	5位	Physical Review. B, Condensed Matter and Materials Physics

国会図書館の「テーマ別調べ案内」

<http://www.ndl.go.jp/jp/data/theme.html>

科学技術・経済情報室関係だけで約500のテーマ掲載、アクセス数は月間10万超。

「科学技術・医療」のコラム

ホット・トピックス、食品、ライフ・サイエンス(食品とその安全性、生物学・農学)、産業技術・工学(産業技術、エネルギー、交通・宇宙工学、エレクトロニクス、IT、化学・化学工業、建築、軍事)、災害・事故(災害・事故)、医療・健康(病気(疾病)別医療情報ガイド、医療・医学、医薬品、心理学)、環境(環境問題、気象・気候)、科学(科学技術基礎、科学技術事情・歴史、物理学、地球科学)、文献調査のノウハウと資料群(所蔵調査・所蔵機関調査・文献検索ノウハウ集、博士論文、規格、特許、会議録、テクニカルレポート、データ集)

「ホット・トピックス」の例

有機ELについて調べる、PubMedでH5N1型鳥インフルエンザ・ウイルスに関する無料アクセス論文にアクセスする方法、ASN Aviation Safety Databaseで鳥が原因の世界の航空機事故例を調べる、インフルエンザについて調べる、花粉症について調べる、北極圏の海氷面積、バイオテクノロジーに関する基礎的知識を得るための資料、太陽光発電

パスファインダーの実施状況

「パスファインダー」とは、「利用者が特定の主題に関する情報収集を図書館で行う際の最初のとっかかりとなる図書館資料のガイドもしくは要チェックリスト」とされており、特定のトピック、ナビ機能、資料・情報源の一覧性、簡便なアクセスを特徴とする。

Web上調査結果表(公共図書館)

図書館種別	図書館数	作成館数	作成館の割合
都道府県立図書館	47	22	47%
政令指定都市立図書館	17	6	35%
合計	64	28	44%

Web上調査結果表(大学図書館)

図書館種別	図書館数	作成館数	作成館の割合
国公立大学図書館	26	11	42%
私立大学図書館	29	8	28%
合計	55	19	30%

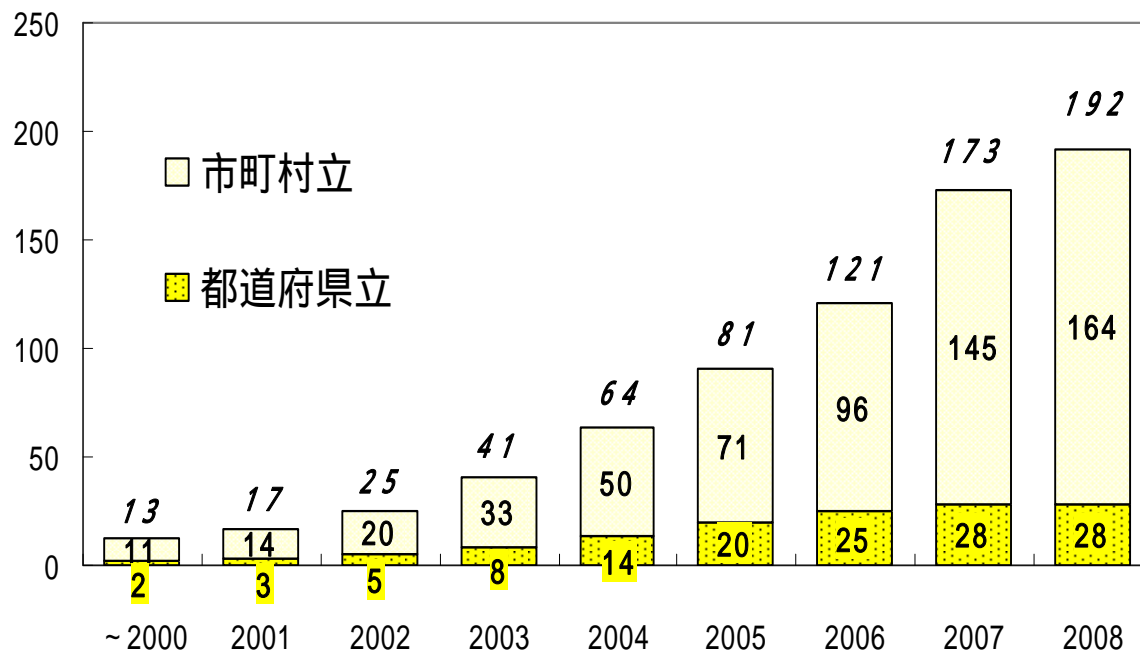
出典：「国内におけるWeb上パスファインダーの現況調査」(伊藤 白、小澤弘太著、
『情報の科学と技術』Vol.58, No.7(20080701) pp. 361-366)

2008年ノーベル賞受賞に関連する国立国会図書館等での情報発信

http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/tech_2008nobel.html から抜粋

- 2008年ノーベル賞は、物理学賞を南部陽一郎氏、小林誠氏、益川敏英氏が、化学賞を下村脩氏が受賞しました。国立国会図書館では、受賞内容を扱った文献を調べるための**パスファインダー（調べ方案内）**を作成しました。
 - 「対称性の破れ」、「緑色蛍光タンパク質」がどのような現象・物質であるのかだけでなく、どのような文献に当たればよいか案内するものです。主要著作を単に羅列するのではなく、詳細な解説を付けていますので、まずどの著作を手にするべきか、判断することが可能です。大部分の文献は、上記のパスファインダー（調べ方案内）から直接原文献を見られるわけではありませんが（一部Web上で公開されているものにはリンクを張っています）、当館所蔵資料については、当館の登録利用者になっていただくことで、ご自宅から複写申込みができます。
 - 今回の日本人ノーベル賞受賞に関しては、当館関西館を含め全国の図書館で、関連展示を行いました。下記ページで展示資料の一覧等の情報をご覧になれます。
 - 「【資料紹介】ノーベル賞をうみだした原典」（国立国会図書館関西館）（10/16～11/7）
 - 「ノーベル賞特集」（千葉県立図書館）（10/9～10/13）
 - 「南部陽一郎氏ノーベル賞受賞記念コーナー」（福井県立図書館）（10/16～11/3）
 - 「ノーベル賞と13人の科学者たち」（愛知県図書館）（10/10～12/27）*
 - 「ノーベル賞」（山口県立図書館）（10/9～11/9）
- * 12月14日に、「ノーベル物理学賞を受賞した小林・益川の理論とは？」という講演会を開催します。

公共図書館でのビジネス支援サービスの実施



代表的サービス

レファレンス

ビジネス支援セミナー(起業講座等の開催)

ビジネス支援コーナー・ビジネス情報掲示板

インターネット・データベース提供サービス

レフェラルサービス(館外情報源の紹介)

産学官連携情報提供サービス

特許情報(情報提供・アドバイザー相談会等)

ビジネス支援図書館推進協議会

設立経緯

NY科学産業ビジネス図書館(SIBL)のビジネス支援サービスを紹介した菅谷明子氏の報告をきっかけに、日本の図書館界で関心が高まり2000年12月に設立。

個人会員約150名(会員の所属図書館約100館)、賛助会員4機関(JST、日本政策金融公庫、図書館流通センター他)

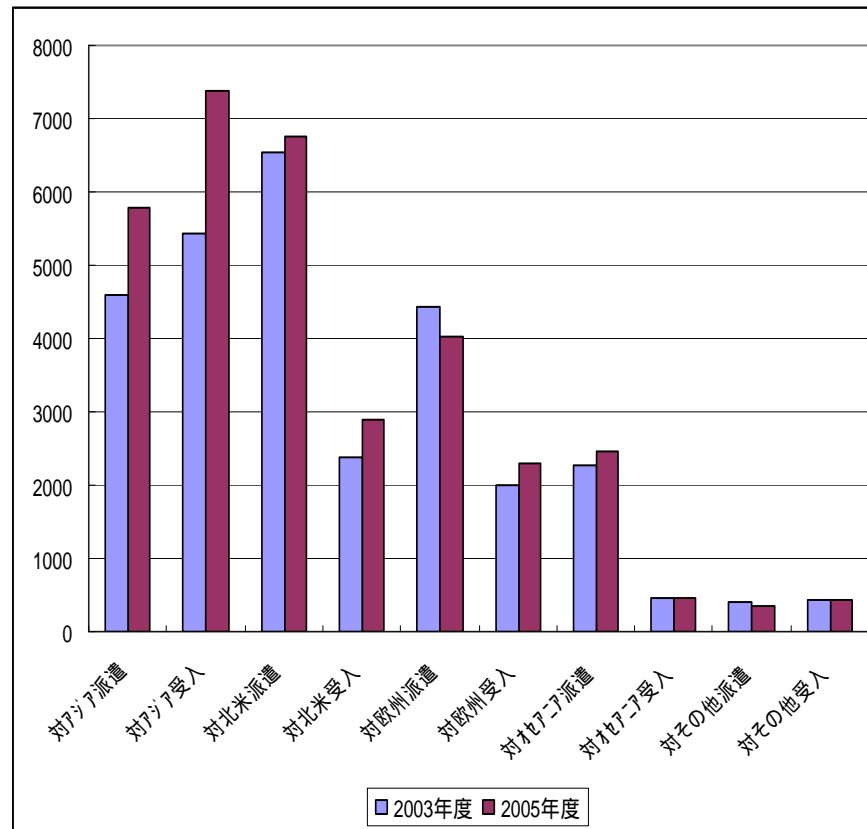
内外から日本に期待される役割を果たしていくため、**アジア諸国との間で科学技術の連携を強化する。**
(基本計画 P.41)

アジア諸国との科学技術協力の連携状況

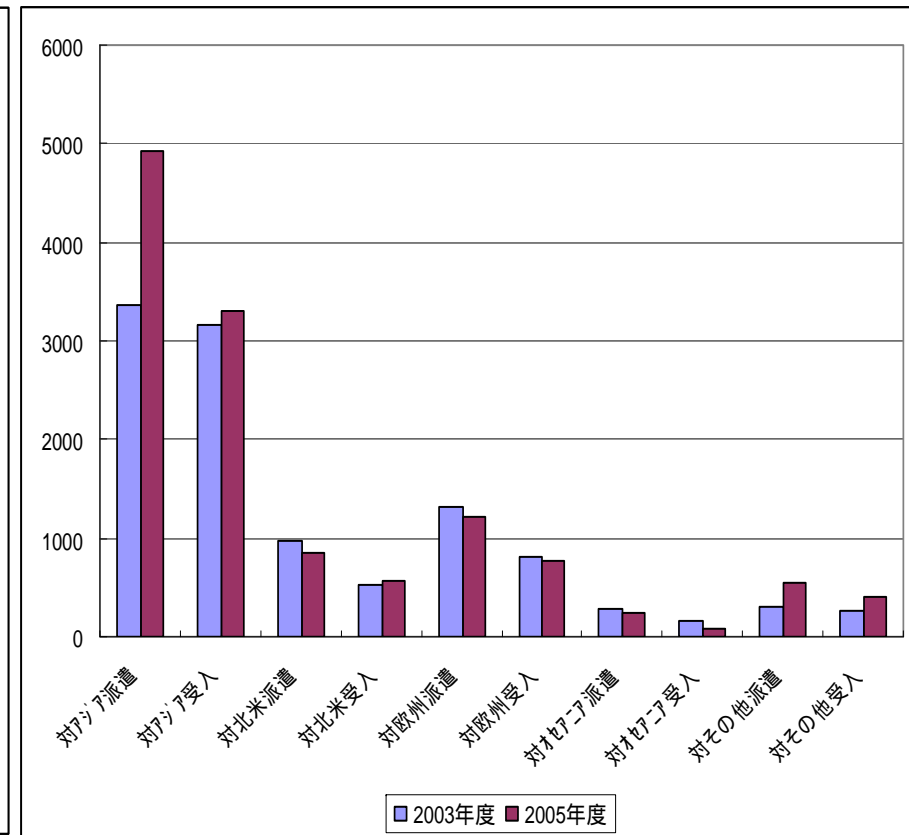
分類	内容
中国、韓国との協力	第1回日中韓科学技術協力担当大臣会合を2007年(平成19年)1月、ソウルで開催(伊吹文部科学大臣(当時)が出席)。環境・エネルギー、防災、感染症対策など地域共通課題の解決のための科学技術分野における日中韓協力を重視する基本的方向を確認した。
アセアンとの協力	ASEAN科学技術委員会(COST)に日・中・韓を加えたASEANCOST+3による協力が文部科学省を中心に行われており、2007年(平成19年)10月には、次官級の第2回ASEANCOST+3会合を東京で開催。
アジア・太平洋経済協力における協力	APEC産業科学技術ワーキンググループ(ISTWG)で、科学技術人材養成等に関するプロジェクトを実施中。
各国との協力(最近の主な活動)	インドとは、第7回日印科学技術協力合同委員会(平成17年11月)を受け、2006年に文部科学省・外務省共催で開催した日印科学技術イニシアティブ会合の成果として、2007年度からICT分野の日印共同研究への支援を開始。 タイとは、日タイ修好宣言調印120周年である2007年に、タイ王国科学技術大臣からの要請を受け、タイ政府主催のタイ科学技術週間展示会において日本ブースを設置した。
プロジェクトベースの協力	「センチネル・アジア」プロジェクト アジア地域で多発する大規模自然災害への対応として、衛星による災害監視が有効であることから、我が国が主催するアジア太平洋地域宇宙機関会議(APRSAF)を通じ、インターネットによって衛生画像等の被災地情報を提供・共有する「センチネル・アジア」プロジェクトが運用されている。 新興・再興感染症研究拠点形成プログラム アジアを中心とした新興・再興感染症発生国及び発生想定国に設置した海外研究拠点(タイ・ベトナム・中国・インドネシア・インド等)及び国内研究拠点において、研究を促進し、知見の集積及び人材養成を行っている。 出典:平成20年版科学技術白書

大学、公的研究機関等において国際活動を担う事務体制の強化、関係機関の海外拠点活動の効果的推進及び連携促進、海外の科学技術動向を体系的に収集・分析する体制の整備など、**国際活動を支える基盤の強化**を図る。
 (基本計画 P.41)

大学間交流協定に基づく学生の派遣・受入状況



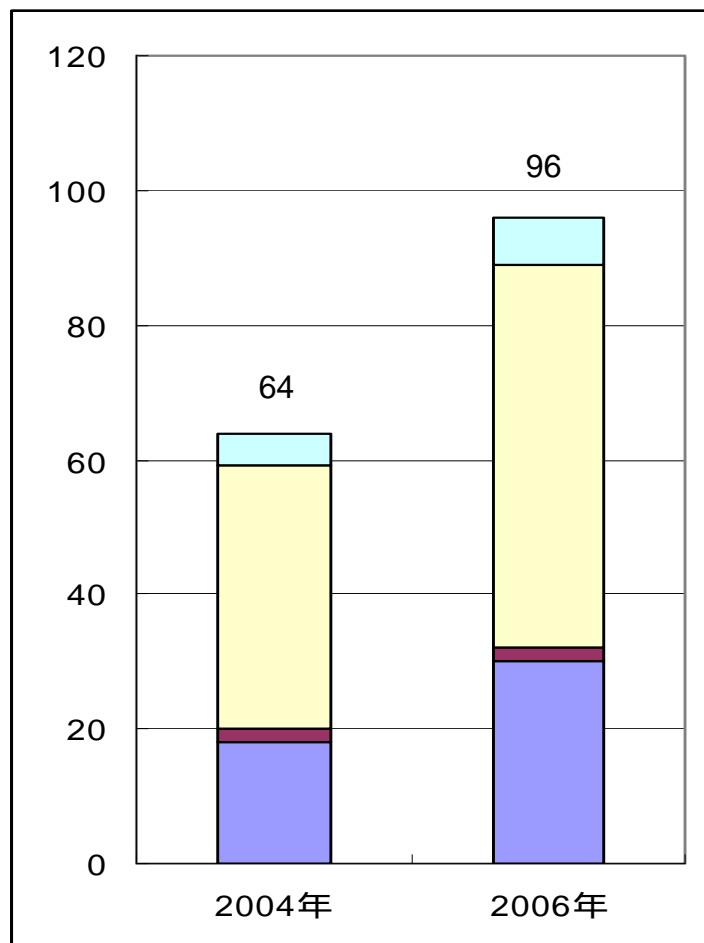
大学間交流協定に基づく教員の派遣・受入状況



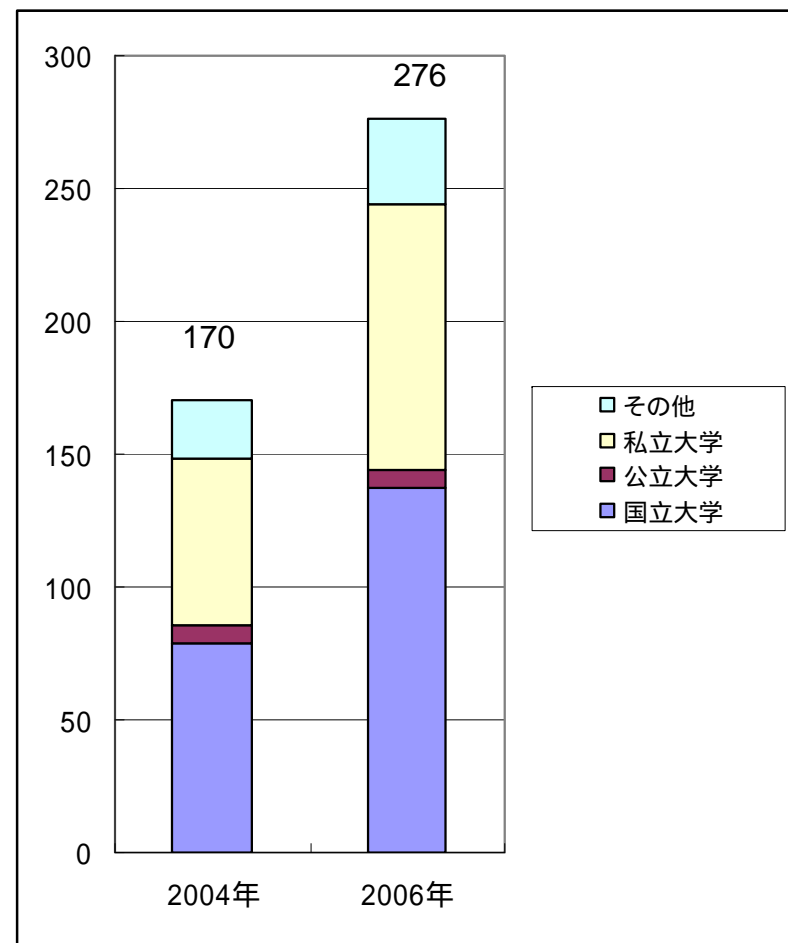
出典：文部科学省「大学等間交流協定締結状況等調査」の結果を文部科学省科学技術政策研究所で再集計

海外拠点を中心とした、研究成果・研究者・研究機関に関する情報の積極的な海外への発信、日本での研究経験を有する者等の関係者のネットワークの形成を支援する (基本計画 P.41)

海外拠点を持つ機関数

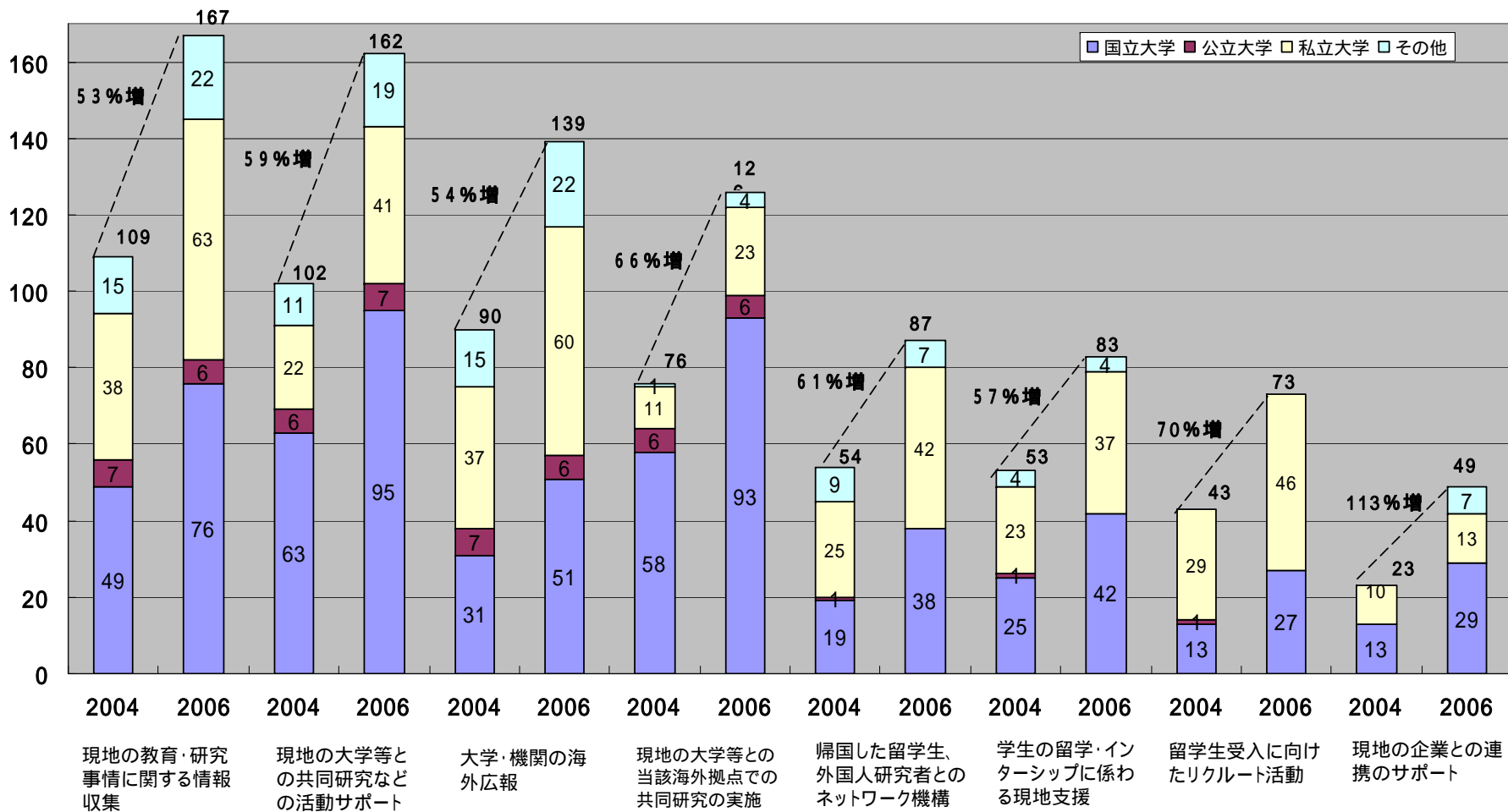


海外拠点数



出典：文部科学省「大学等間交流協定締結状況等調査の結果について」(2007年9月、2005年5月)

大学の海外拠点の設置目的



出典: 文部科学省「大学等間交流協定締結状況等調査の結果について」(2007年9月、2005年10月)

研究機関・研究者等は、研究内容や成果を社会に対して分かりやすく説明することを基本的責務と位置付け(略)、多様な媒体を効果的・効率的に活用する。国民のニーズを研究者等が共有するための双方向コミュニケーション活動であるアウトリーチ活動を推進する。(基本計画 P.42)

サイエンスカフェの取組

- 「サイエンスカフェ」とは、科学者などの専門家と一般の市民が飲み物を片手に気軽に科学などの話題について語り合うもので、講演会でもシンポジウムでもない、新しく楽しいコミュニケーションの場。フランスのcafe philosophique(哲学カフェ)をモデルに1998年に英国で「cafe scientifique」の名前で始められ、全世界に広まりつつある。
- 日本でサイエンスコミュニケーションが盛んに論じられ、多くの実践例が出てきたのは2000年以降のこと。2005年は、科学技術振興調整費により北海道大学、早稲田大学、東京大学で科学技術コミュニケーター等養成が始まり、「科学技術コミュニケーション元年」とも呼ばれる。
- 日本で主催しているのは、大学・研究機関・科学館から学会、NPO、企業、個人に至るまで多彩で、そのスタイル・会場・テーマも千差万別。参加者との双方向性が強く意識され、研究に関する話題提供をもとに研究者と参加者が同じ目線で対等に対話することを特徴にしている。
- 「図書館でも利用者とのコミュニケーションを通じて社会にある科学への要望が具現化する場となり、科学技術の専門家側に要望を伝え、新たな情報を引き出し、再び利用者に提示する、といった機能を果たせるはず。両者がより緊密に連絡を取りうる関係を築くことが、サイエンスコミュニケーションの場として図書館に、より大きな可能性をもたらすだろう。

図書館を会場としたサイエンス コミュニケーション活動の実践例



神奈川県立川崎図書館で行われた
サイエンスカフェの様子
(写真提供: 神奈川県立川崎図書館)

名称	会場	主催	人数	実施頻度・回数
さばえライブラリーカフェ	鯖江市文化の館	鯖江市	30人程度	月1回開催
科学読物研究会 例会・くらべよみの会	杉並中央図書館	科学読物研究会	数十人規模	月1回程度開催
東北大学サイエンスカフェ	せんだいメディアテーク	東北大学	50-200人 程度	月1回開催
総研大サイエンスカフェ	葉山町立図書館	総合研究大学院大学	16人	1度開催
サイエンスカフェ	茨城県内の 図書館各所	茨城県など	40人	年に7-8回開催(うち、図書館開催は2回程度)
サイエンスカフェ	神奈川県立 川崎図書館	神奈川県立 川崎図書館	40人	不定期に年に5度程度開催
サイエンスカフェ	大阪府立中央図書館	大阪府立中央図書館	70人	不定期に年に数度開催
展示「エイリアン展」in 千代田図書館	千代田区立 千代田図書館	千代田区立千代田図書館	—	日本科学未来館での企画展 開催期間に合わせて、2か月 間程度 同様の企画は、年に1度程度

- **「東北大学サイエンスカフェ」**：図書館で行われている最大のサイエンスカフェ。会場の「せんだいメディアテーク」は、映像メディアの貸出、スタジオ・展示スペースも提供する複合施設のオープンスクエアで、50～200名程度が参加し、毎月開催されている。主催の東北大学は、施設を運営している仙台市とその教育委員会、地元高校・メディアなどとの協力関係を築き、ワーキンググループを形成して運営にあたっている。
- **神奈川県立川崎図書館**：「科学と産業の情報ライブラリー」標榜する神奈川県立川崎図書館では、図書館員の独自の取り組みとして、サイエンスカフェを始めている。2006年11月以来、不定期に開催。きっかけは2006年4月の科学技術週間での日本学術会議主催のサイエンスカフェ（全国21か所）のテレビ報道。2008年には6回開催されている。同館では一般向けの科学書をそろえた「ポピュラーサイエンスコーナー」を整備するとともに、情報誌『やさしい科学しんぶん』（隔月刊）、「サイエンス・コミュニケータ」を特集したこともある『科学EYES』（年2回）の発行なども行っている。
- **大阪府立中央図書館**：2008年の1月から、資料展示と連動して、サイエンスカフェを開催し、既に8回実施している。資料展示（「科学・技術と私たちの未来」）を行う際に、科学関係機関の発行物を収集しようと日本学術会議に問い合わせたことがきっかけ。
- **「さばえライブラリーカフェ」**（鯖江市文化の館）：毎回30人程度を対象に、主に地元の研究者・技術者を講師に、「最先端の調査研究や深い思索を行っている方」から「お話を聞きながら気軽に交流する場」という趣旨で、既に40回近く開催されている。数回に1度、科学技術が話題となる。
- **「科学読物研究会」**：東京都内を中心に、子ども向けの科学の本の勉強会などを中心に長く活動を続けている科学読物研究会では、科学系の本の著者を招いた例会や、テーマを決めた比較の会などを、杉並中央図書館を主な会場として行っている。
- その他のサイエンスカフェ：総合研究大学院大学が主催するものが葉山町立図書館を使用し、茨城県が主催するものが県内各所の図書館を利用している。

神奈川県立川崎図書館でのサイエンスカフェ（2008年度分）

- 第15回 「光触媒のすべて」藤嶋 昭さん（神奈川県科学技術アカデミー 理事長）2009年2月7日（土）
- 第14回 「体内時計を調節するメラトニンの秘密 ～体のリズムを整える注目の脳内物質～」服部 淳彦さん（東京医科歯科大学 教授）2008年12月21日（日）
- 第13回 「ニセ科学の見破り方教えますver.2 ～水と健康をめぐるニセ科学にご用心～」天羽 優子さん（山形大学 理学部 准教授）2008年10月5日（日）
- 第12回 「第2の地球の探し方 ～あなたの知らない太陽系の向こう側～」藤原 英明さん（東京大学大学院 天文学専攻）2008年8月30日（土）
- 第11回 「かながわの大気環境を読む ～いま私たちにできること！～」飯田 信行さん、松本 徹さん（神奈川県環境科学センター）2008年6月1日（日）
- 第10回 「ニセ科学の見破り方教えます！ 波動水からマイナスイオンまで徹底検証」左巻 健男さん（法政大学生命科学部 教授）2008年4月20日（日）

大阪府立中央図書館でのサイエンスカフェ

- 第8回 「宇宙への夢」今井 健雄さん（宇宙航空研究開発機構JAXA）2009年1月17日（土）
- 第7回 「地球温暖化と最新エネルギー技術について～私たちにもできること～」杉浦 公彦さん（大阪府立工業高等専門学校 総合工学システム学科 准教授）2008年12月6日（土）
- 第6回 「不思議な生き物クラゲ」村井 貴史さん（海遊館ふあふあクラゲ館 農学博士）2008年10月18日（土）
- 第5回 「介護の現場から」藪 眞紀子さん（特養たちばなの里 主任ケアマネジャー）濱西 佑介さん（同 相談員・ケアマネジャー）2008年9月20日（土）
- 第4回 「スポーツ時の水分補給と栄養補給～コンディショニングのための2つのポイント～」吉岡 弘文さん（大塚製薬）2008年8月23日（土）
- 第3回 「ジェネリック医薬品～ジェネリック医薬品ってなんだろう？～」津田 康光さん（沢井製薬）2008年5月24日（土）
- 第2回 「地上デジタル放送～どう変わるの？ 地上アナログ放送から地上デジタル放送へ～」水谷 照一さん（NHK大阪放送局ネットワーク技術チーフエンジニア）2008年4月26日（土）
- 第1回 「科学・技術と私たちの未来 人を幸せにする身近な科学・技術～携帯電話での道案内サービスの開発から～」土井美和子さん（東芝研究開発センター技監）、本田 孔士さん（大阪赤十字病院 長）2008年1月20日（日）

先端技術の情報発信とイノベーションの場としての国際見本市の例

- **国際 水素・燃料電池展 (FC EXPO)**

05年の初回から世界最大の国際見本市に。世界中から最先端の技術情報を求めて来場。

- **国際 太陽電池展 (PV EXPO)**

08年の初回から日本最大。09年にはアジア最大に急成長。

- **フラットパネルディスプレイ研究開発・製造技術展**

液晶等の先端技術の世界最大の展示会。液晶テレビは夢のまた夢と言われていた89年に立ち上げ。新業界を創造する原動力となったと言われる。薄型テレビ、薄型画面市場を創出した国際見本市。

- **国際バイオ EXPO**

01年初回。アジア最大級。170の研究室が発表。セミナーを含め250の発表があり世界最多。バイオの産業化に向けた技術革新のための国際見本市。

- **ネプコンワールド**

日本が世界に誇るエレクトロニクス製造技術が一堂に集結。38年目。世界から55000名の技術者が来場。アジア最大級。

- **機械要素技術展**

世界最大の機械加工技術の国際見本市。日本の誇るものづくり技術が集結。出展企業の90%以上が中小企業で、中小企業の技術革新のために重要な役割を果たしている。

- **情報セキュリティ EXPO**

02年初回。急速に高まる情報セキュリティ技術の最先端技術を一堂に集結。技術革新・イノベーションのベンチマークとして、情報セキュリティ社会確立に貢献。

- その他、先端技術の情報発信の場として、「**バーチャルリアリティ**」「**RFID**」「**レーザー技術**」「**ソフトウェア開発技術**」などがある。

- また、最先端の競争領域になりつつある「**次世代照明技術展**」「**カーエレクトロニクス技術展**」「**グリーン IT EXPO**」などを順次立ち上げ、日本の先端技術を世界に発信中。

燃料電池政策と国際見本市のタイアップ事例 (2006年以降、経済産業省)

世界のトップ研究者等の招待講演

- ・ロスアラモス研、再生可能エネ研(NREL)や国際機関等のキーパーソンを招聘(back to backで国際協力や国際会議の下根回しも行う)。
- ・サイエンスや政策での世界の最先端を紹介することで、ものづくり「技術」に注力しがちな日本のエンジニアに刺激を与える。

大学等の研究者の研究発表セミナー

- ・大学等の研究者に対し、研究成果の情報発信の機会を提供するために、企業経営者やエンジニアが参加する見本市会場のフロアで発表会を行い、産学交流のきっかけを作る。

中小企業パビリオン

- ・技術の完成や効率向上に不可欠な補機や最先端測定器などの中小企業に展示ブースを無料で提供し、世界に向けて情報発信。

大阪FC EXPOセミナー

- ・ものづくりのまち大阪でも、関係企業のブース展示に加え、優秀中小企業のパビリオン、各種技術セミナー、燃料電池車試乗会等を実施し、産業界・研究者の新規参入と国際交流を図る。

FC EXPO・PV EXPO 2009の状況 この大不況下でも出展者・入場者は大幅増

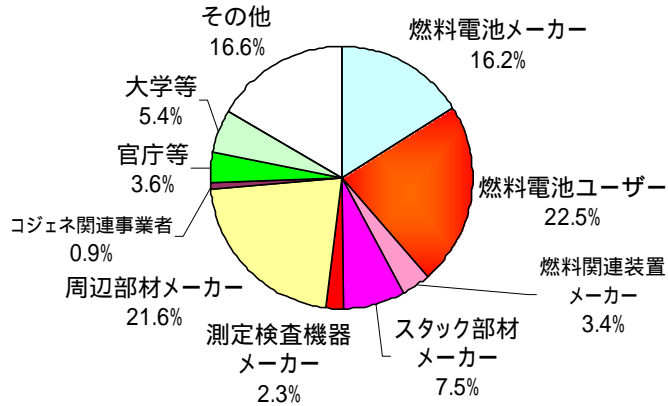


見本市はイノベーションを促し、新産業の成長を促す！ 出展社数、来場者数ともに、加速度的な増加を遂げてきた。

昨年は専門技術セミナーに4,116名が参加。最先端の技術情報を交換。

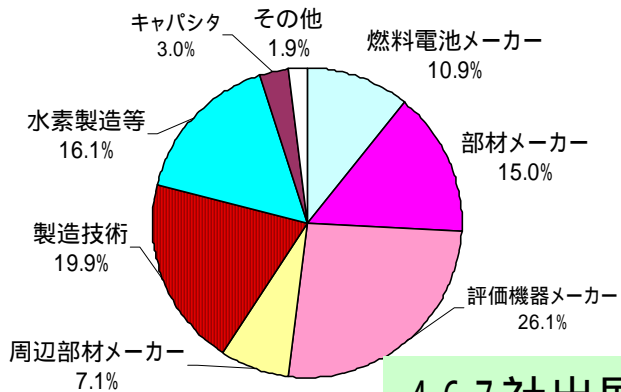
異分野技術が接触する国際見本市

燃料電池セミナー受講者



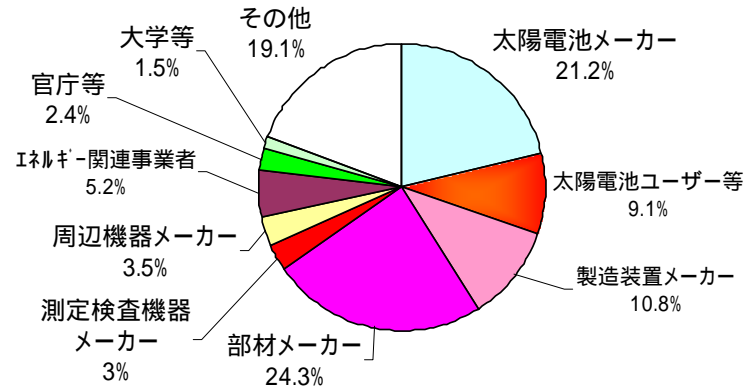
4,116名受講

燃料電池出展者



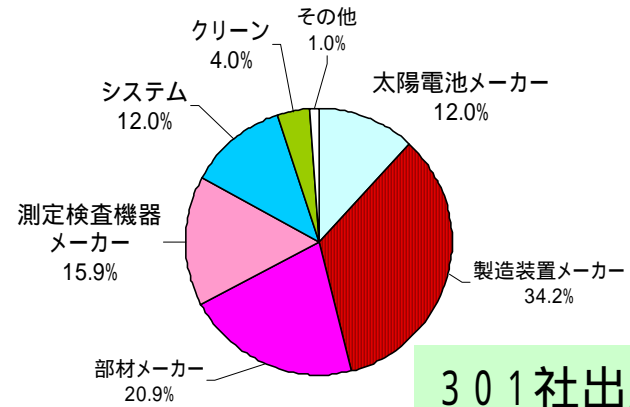
467社出展

太陽電池セミナー受講者



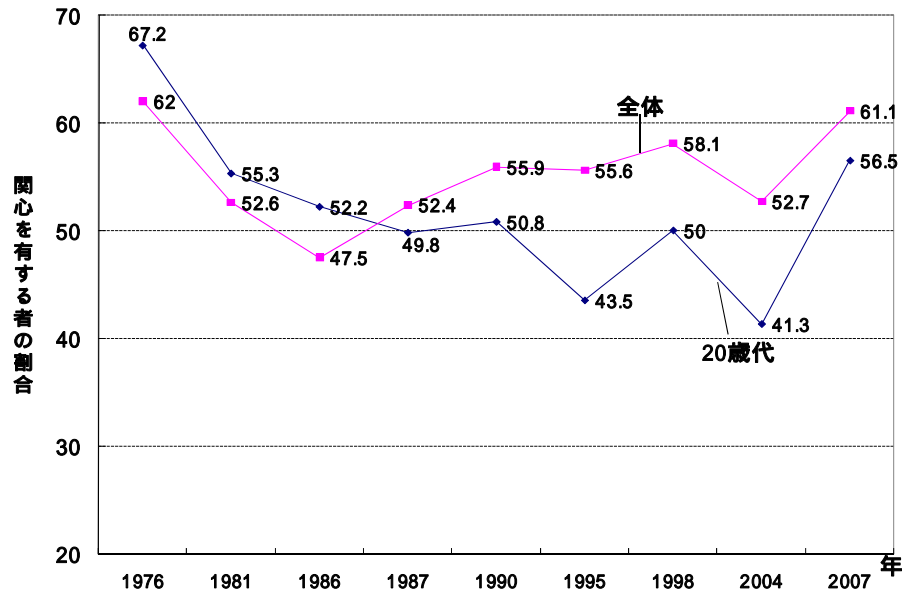
3,934名受講

太陽電池出展者

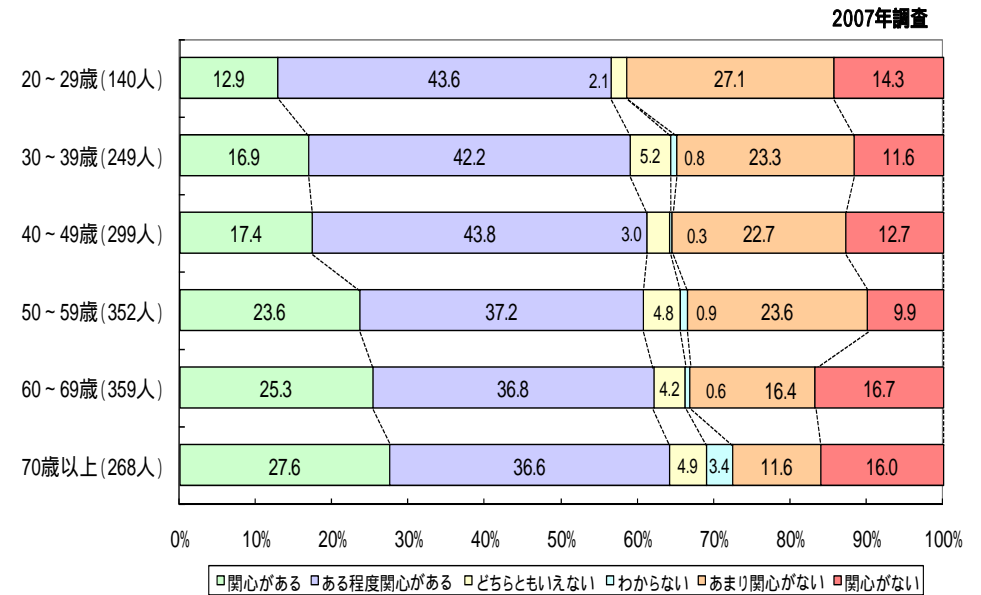


301社出展

科学技術に対する国民の関心の推移

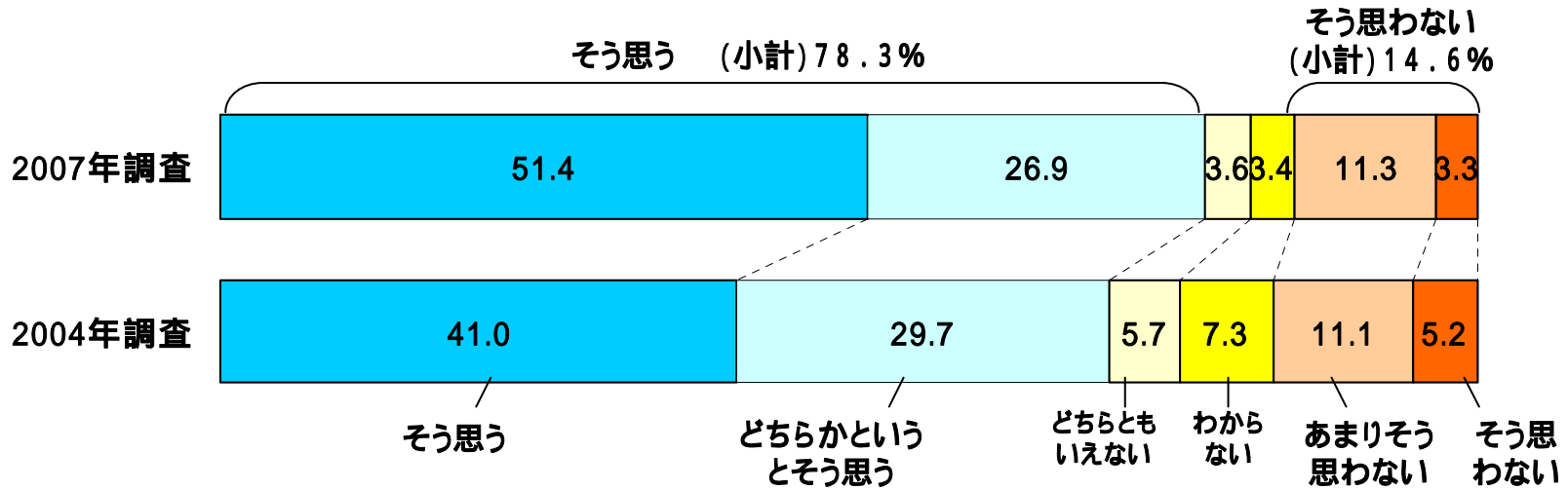


科学技術に対する国民の関心度 (年齢層別)

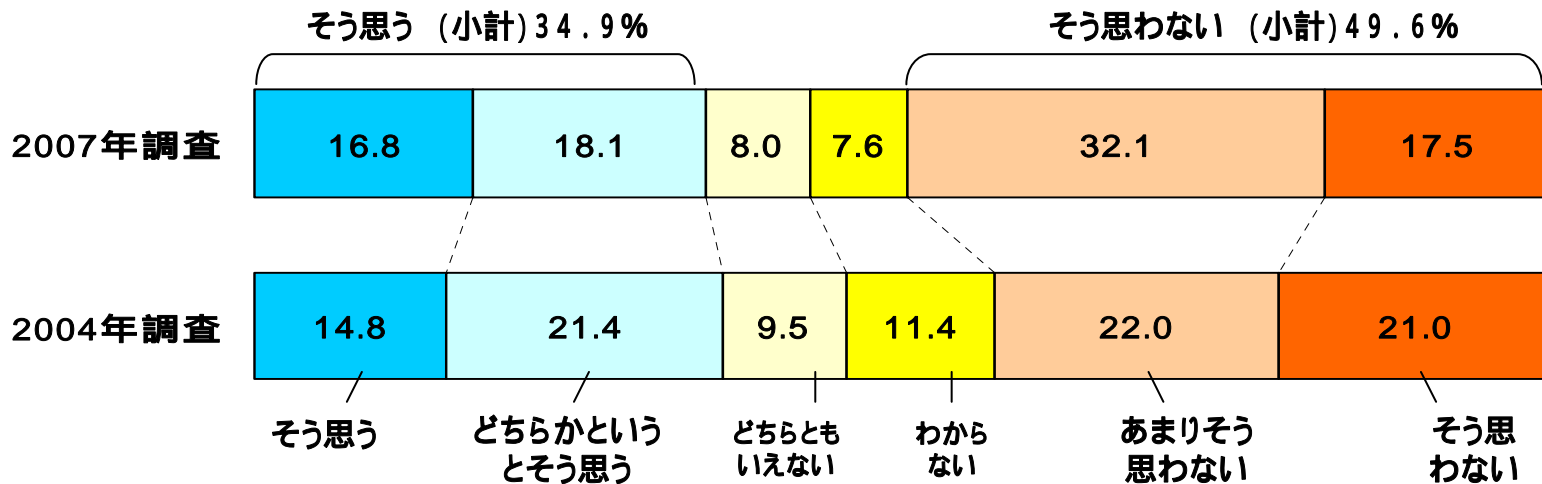


出典:「科学技術と社会に関する世論調査」、内閣府
左図の割合は「関心がある」「ある程度関心がある」の和

国際的な競争力を高めるためには、科学技術を発展させる必要がある

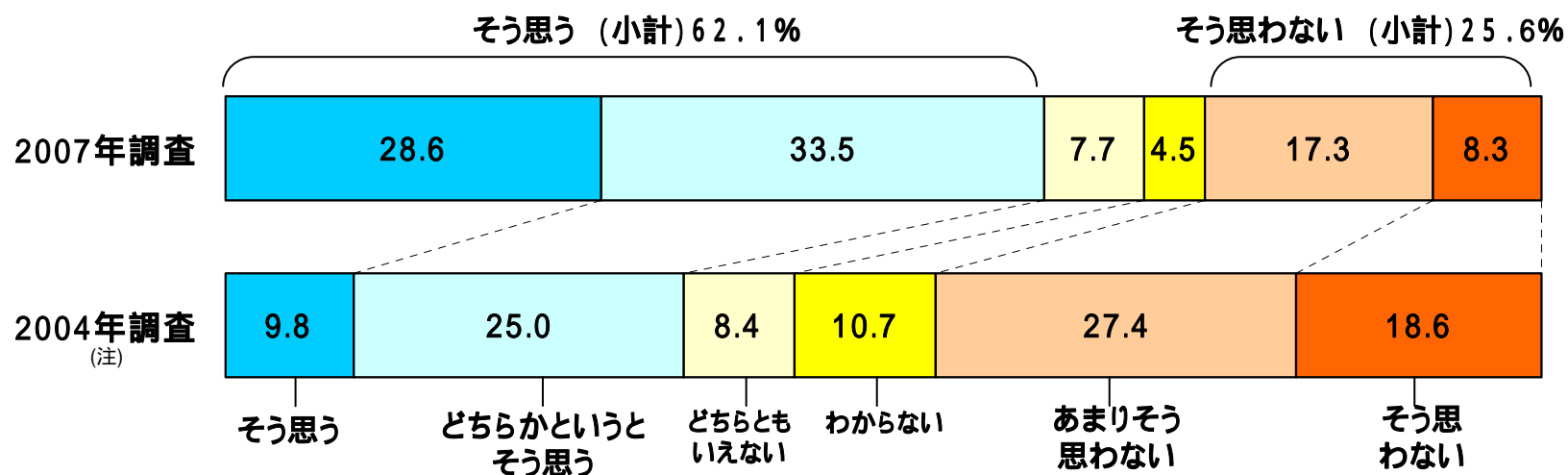


学校で理科や数学の授業は、生徒の科学的センスを育てるのに役立っている



出典：内閣府大臣官房政府広報室

社会の新たな問題は科学技術によって解決される



(注)

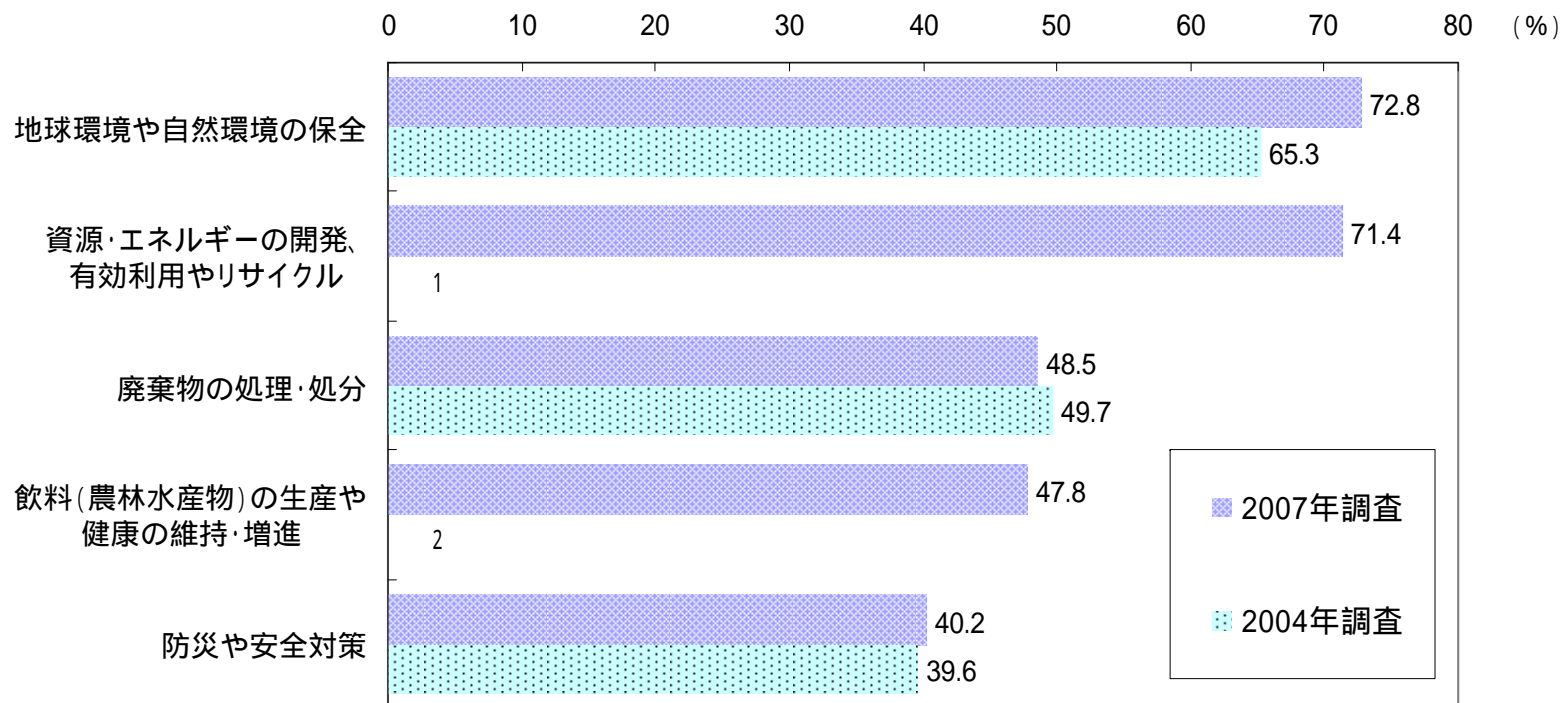
2004年調査の問 「環境問題などの社会の新たな問題は科学技術によって解決される」

2007年調査の問 「資源・エネルギー問題、環境問題、水、飲料問題、感染症問題などの社会の新たな問題は、更なる科学技術の発展によって解決される」

出典：内閣府大臣官房政府広報室

科学技術が貢献すべき分野 トップ5

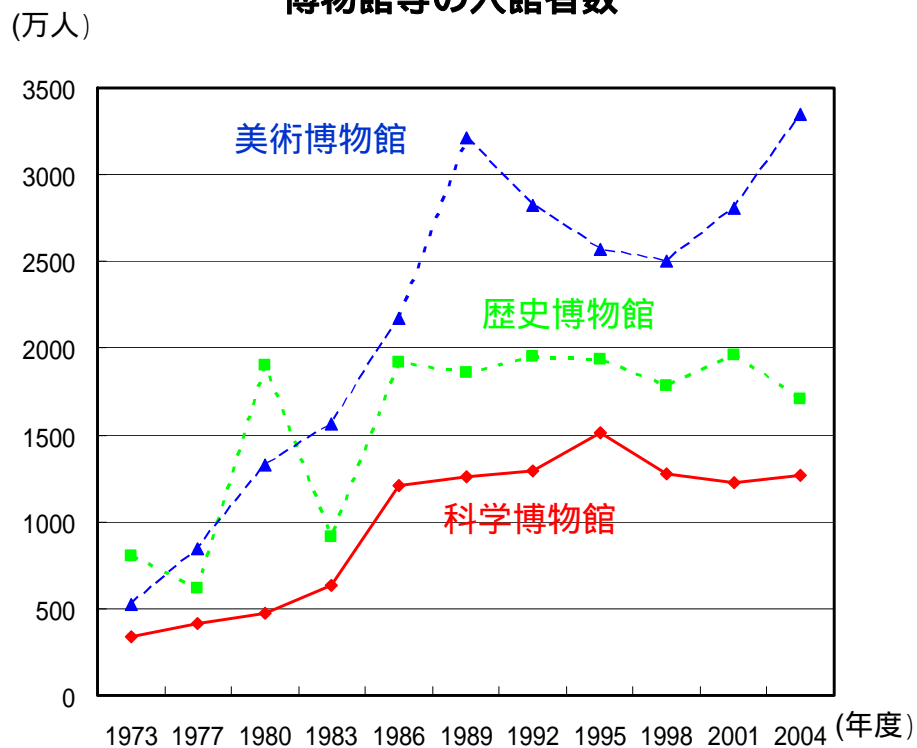
(複数回答)



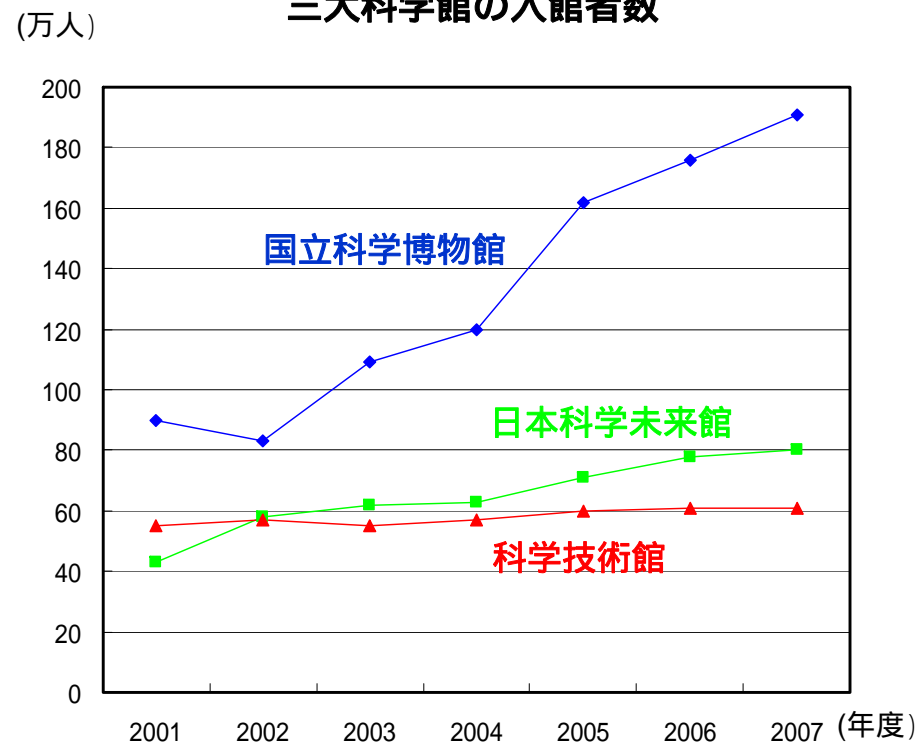
- 1 2004年調査では、「資源の開発やリサイクル」が60.7%、「エネルギーの開発や有効利用」が58.7%となっている。
- 2 2004年調査では、「健康の維持・増進」が42.6%、「飲料(農林水産物)の生産」が31.7%となっている。

出典：内閣府大臣官房政府広報室

博物館等の入館者数



三大科学館の入館者数



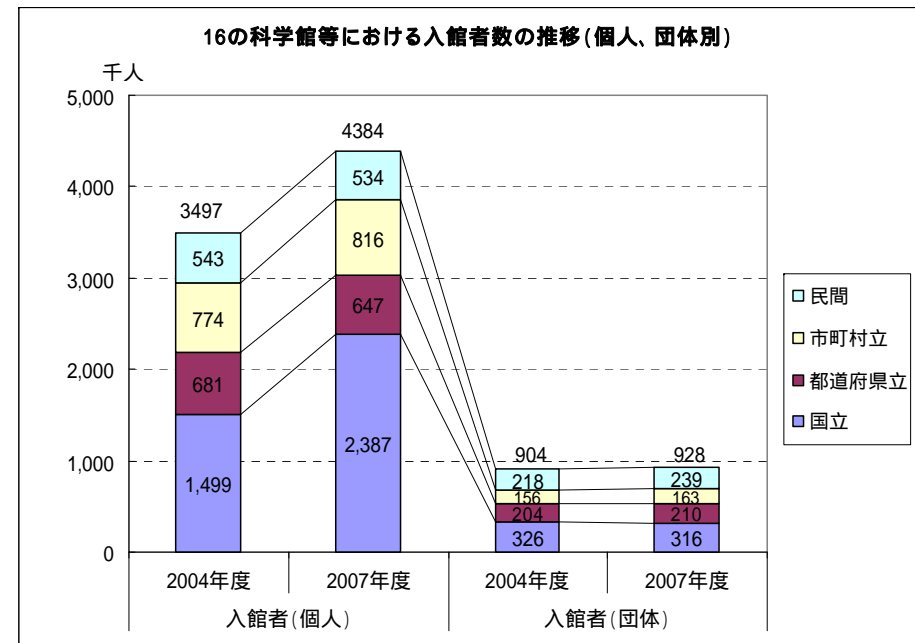
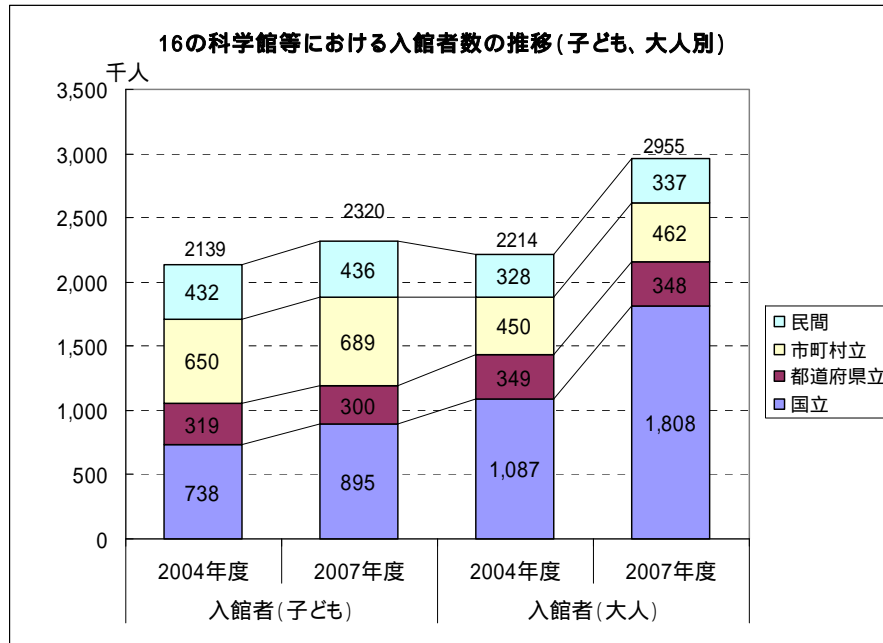
国立科学博物館(1949～)



日本科学未来館(2001～)



科学技術館(1964～)



注: 科学技術政策研究所調べ(2008年12月)

: 子どもと大人の区分、又は個人客と団体客の区分による入館者数が把握されていなかった館がそれぞれ複数あったため、総数との整合は図られていない。

16の科学館	
民間(4館)	科学技術館、がすてなーにガスの科学館、JT生命誌研究館、北陸電力エネルギー科学館
市町村立(5館)	札幌市青少年科学館、仙台市科学館、さいたま市青少年宇宙科学館、石川県柳田星の観察館(満天星)、名古屋市科学館
都道府県立(5館)	神奈川県生命の星・地球博物館、千葉県立現代産業科学館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、愛媛県総合科学博物館、福岡県青少年科学館
国立(2館)	日本科学未来館、国立科学博物館

16科学館等の当初予算額の増減状況（2005年度と2008年度の比較）

	減	横ばい	増	その他
予算総額	13	2	0	1
うち人件費	9	3	2	2
うち理解増進活動費	11	2	2	1
うち施設費	12	2	1	1

出典：科学技術政策研究所調べ（2008年12月）

16科学館等での理解増進活動の強化

順位	17年度から20年度にかけて対応が増大した理解増進活動の取組	回答 機関数	今後強化したい理解増進活動の取組	回答 機関数
1	館外の会場での講座・展示等	7	特別展・企画展等の企画・立案	10
2	ホームページの企画・作成等	6	体験教室の企画・指導等	8
3	メール等の質問への対応	6	学校等の集団見学への対応	7
4	体験教室の企画・指導等	5	イベント活動(サイエンスショー等)の実演	6
5	イベント活動(サイエンスショー等)の実演	5	教育プログラムのコンテンツの開発	6
6	展示の解説	5	展示の解説	5

出典：科学技術政策研究所調べ（2008年12月）

：アンケート調査では、理解増進活動として20項目の取組メニューを提示し、17年度から20年度にかけて取組が増大した活動については、各項目毎に「増大」、「横ばい」、「減少」をそれぞれ選んでもらうようにした。また、今後強化したい理解増進活動の取組については、上位5つまでの選択性とした。

16科学館等の職員数の比較

	総職員数		常勤の職員数(兼任含む)		非常勤の職員数	
	2005年	2008年	2005年	2008年	2005年	2008年
国立	397	413	287	286	110	127
都道府県立	227	196	130	105	97	91
市町村立	122	114	102	96	20	18
民間	108	122	104	118	4	4
合計	854	845	623	605	231	240

16科学館等でのボランティア登録者数及び活動延べ日数の比較

	登録者総数(男女計)		活動延べ日数	
	2005年	2008年	2004年度	2007年度
国立	1,098	982	22,437	25,073
都道府県立	410	461	2,856	2,884
市町村立	408	440	3,400	3,415
民間	54	67	250	358
合計	1,970	1,950	28,943	31,730

設立区分別に、職員数を合計

出典：科学技術政策研究所調べ(2008年12月)